
くうりあんと。

莉伊琉 兎緒可

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くうりあんと。

【Nコード】

N9556F

【作者名】

莉伊琉 兎緒可

【あらすじ】

ある日事故に遭って死んだと思ったら何故か異世界に生まれ変わってしまった主人公。魔術師の家系に生まれたらしい彼はこうなったら全力で第二（？）の人生を謳歌することにする。

ブログ（前書き）

一度間違えて削除してしまったので、投稿のし直しです。

ブローグ

夏休みも半ばまで消化した頃。

あまりにも暇だったので図書館に行くことにした。普段なら絶対に行こうなどとは考えない図書館に。

そしてその道のりも後わずかというところの信号で僕は捕まってしまつて、図書館の入り口を目の前に数分間ギラギラの太陽にさらされることになってしまった。

ダラダラと垂れてくる汗を服の袖で拭いつつ電柱に背を預ける。すると影になつていたのか、少しだけヒンヤリとしていて気持ち良かった。

軽く目を瞑つて、その感触をもう少し強く感じられないかと意識を集中したとき、

ギユ、キ　　ッ!!

甲高いブレーキング音が耳朵を突き刺してきたので驚いて目を見開いた刹那。圧倒的な衝撃を受けて思考が停止し、見たものを一瞬脳が処理できずに自失する。

だがそれも数瞬。背中からの二度目の衝撃に思考が再開し、状況を理解した。

どうやら車に跳ねられたらしい。フロントが凹んだ乗用車と肘の辺りが潰れた右腕が視界に入っていた。

うわー、悲惨。と自分の腕を眺めつつ、悲鳴や救急車っ!という怒号をBGMに痛みで動けずにいた。

そして案外冷静にそんなことを考える余裕がある僕はもしかしてスゴイ……?

なんてことはなく。いきなり意識が途切れた。

ピン、と張っていた糸をハサミでチョキンと切つたように。

そして、次に目が覚めると僕は僕でなくなっていた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9556f/>

くうりあんと。

2010年12月31日23時37分発行